

オーガスタンの まなざし



主教 小林 尚明

『自己理解』

今年2月初め、英国カンタベリー大聖堂の新任主教研修に参加しました(4月号参照)。日々の礼拝は世界約160ヶ国、7000万人以上の信徒の総本山の大聖堂で行われました。礼拝の前後、トマス・ベケット暗殺の場所や聖オーガスタンの椅子、地下礼拝堂などを歩きながら歴史の重みを感じていましたら、ふと目に着いたのは巡礼者に向けての大聖堂の紹介文でした。

『カンタベリー・キリスト大聖堂の目的は、神様に対する祈りと賛美の場所となることです。私たちの使命(ミッション)は、人々にイエス様を見せることです。そのために私たちは暖かい歓迎と接待を用意しています。そして、すべての人に神様の威厳を見る機会を与えます。』と説明されています。この紹介文を読みながら、私たちの大聖堂は、ど

うなんだろう？神戸教区に属する教会は、どうなんだろう？と考えました。何のために私たちの教会はあるのでしょうか？そのことを明確に表現した紹介文は教会に留意され、信徒の皆さんの中で分かち合われているのでしょうか。そうした教会の存在目的を話し合うことも大切だと思います。

また4月号で、弟子養成の大切さを書きました。みなさんはどういう信徒に成長するように期待されているとお考えでしょうか。信仰生活の目標がしっかりと見据えられていることが大切だと思います。

祈祷書258頁から「教会問答」という箇所があります。その29の問は「信徒とは何ですか」。答は「キリストとその教会を表し、どこにいてもキリストを証し、与えられた賜物によって、この世で、キリストの和解の業を遂行し、教会の生活と礼拝と運営に責任を負う者です」とあります。そして教会問答の最初の説明文には、「信徒は皆これ(教会問答)をよく身に付け、またこれを人々に伝え証しすることが大切である。」とあります。

こうした学びをしつかり行っていく事、そこに神様が期待されている弟子としての信徒の姿があると考えます。

(神戸教区主教)

第56回神戸教区 中学生大会準備会報告

私は、第56回神戸教区中学生大会で副大会長を務めさせていだいており、まず、宇田裕貴と申します。

私たちは、3月29日(金)から30日(土)の2日間、広島市にある似島臨海少年自然の家で中学生大会の準備会を行いました。今年の役員は10名ですが、私を含め5名が初めて役員をします。どうぞ、よろしく願います。

私は、中学生大会との「出会い」に深く感謝しています。私は、母の勧めで大会に参加しました。そこで教会では会うことのできない仲間、親しい仲間ができました。それがきっかけで、洗礼を受けることになったからです。だから、大会を作る側になりました。「出会い」は、何かを生み出します。感謝のみならず、笑顔・友好・力などです。参加者全員が、一期一会の機会で様々なことを感じて欲しいと思います、今回のテーマ

を「アイ」としました。「出会い」の中に「愛」がある。日頃の自己を振り返り、「日常に溢れる神さまや人の愛を再認識する」という意味も込めています。このテーマを中心に、今までにない一風変わった大会を役員一同で作りたいと思います。人数は少ないながらも、その為の準備をしました。各役員の役割分担をしたり、疑問を解決したり、協力して楽しくできました。仲を深め、本番が成功できるように、雨の時のプログラムもしっかりと立てることができました。

中学生大会は、8月13日(火)から16日(金)まで似島臨海少年自然の家を会場に行なわれます。参加対象は、小学4年生から高校3年生までです。一人でも多くの人に参加して欲しいと思っています。また、大学生などの方でも、キャンプサーバーとして参加して、大会を支えて頂ければ幸いです。また私たちは、あまり教会に行つたことのない人も参加して欲しいと思っています。純粹に一夏の思い出として参加して頂ければ光栄です。もし身近に参加できる人がいましたら、是非お声をかけをお願い致します。最後に、皆様のお支えに誠に感謝致します。

(福山諸聖徒教会信徒)

